

2021年度(令和3年度)学校評価自己評価表

至誠中学校区	校番73	福山市立山南小学校
	最終更新日	2021年(令和3年)10月1日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力	主体的に学び合う力
<ul style="list-style-type: none"> 至誠中学校区3校の教育活動が、校区全体に共有化され、地域と共に子どもを育てる環境を整備する。 学校に登校できにくい児童・生徒を、学校だけでなく地域全体で見守り、支える組織づくりを行う。 主体的な学びづくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に挨拶をすることができ規範意識が高いが、自己肯定感が低い児童・生徒もいる。 基礎学力の定着や主体的な学習習慣の確立と活用力及び基礎体力に課題がある。 	21世紀型“スキル&倫理観” めざす子ども像(義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	主体的に課題を発見し、協働して解決することができる子ども ○授業づくり：めざす子ども像の実現に向けて、各校の授業公開を通して協議し、「子ども主体の学びづくり」の充実を目指す。 ○小・中学生との交流：小中学校合同行事(挨拶運動・絵本の読み聞かせ等)の開催

III 自校

ミッション 社会で市民として生きていくための教育 どんな社会(=多様化する予測不能な社会)でも自分らしく生きるための教育 いのちを守る教育 <u>安心・安全</u>
学校目標 自分らしく生きる ~Be Happy~
現状 <子ども主体の学び> 児童の肯定的評価「自分の考えは認められている」・・・77% 「授業で考える(考え合う)ことがおもしろい」・・・80% □自分を振り返り検証し次の目標を決めるリフレクションの取組、ペアトークなどで意見を聞き合う活動を通して自分のペースで学びを進め、自分で決めた課題に取り組む子どもが増えた。 「お互いの考えを認め合うこと」について具体的に共有しながら学習を進める。個々の興味関心をもとにした学習につなげていく。 <授業> 毎日又は教科のリフレクションの時間をとり、子ども自身で自分の成長を関与することができる。主体的に問いを立てたり、自らの課題を見つけられるようにするために、単元計画や教材、関わり合いの工夫をしていくことを継続して取り組んでいる。

育成する力	「主体的に問いを立てて、他者と協働しながら解決していく力」		
	1 自分から進んで取り組む力(主体性) 2 友達と協力する力(協働性) 3 自分らしく表現する力(創造性) 4 みんなのことを考えみんなのために働く力(社会貢献力)		
めざす子ども像	1・2年	3・4年	5・6年
	自力解決や協働解決の素地が育っている	多様な主体的・協働的な活動ができる	自己決定を含む主体的・協働的な活動ができる
	理由をつけて自己の考えを表現できる	自己の考えを活動を伴って検証できる。リフレクション	リフレクションを通して自己の考えを発展できる
	①目標 自分にとってふさわしい目標やめあてを決めて学習する。	②積極性 グループやクラスでの話し合いの時に自分の考えや意見を積極的に出す。	③実行 グループや自分で決めた計画にそって、進んで調べたり作ったり発表する。
2 友達と協力する力(協働性)	④対話 自分の意見やアイディアを友達に納得してもらえるように説明し合う。	⑤協力 グループワークの時に、友達と協力して課題やめあてに取り組む。	⑥練り上げ 友達の良いところやアドバイスを生かし合って、より良い考えや作品を作る。
3 自分らしく表現する力(創造性)	⑦発想 新しいアイディアや工夫はないかと、いつも自分で考える。	⑧個性 自分らしい考えを生かして文章を書いたり発表したりする。	⑨課題発見 「なぜだろう?」「どうしてかな?」といったも考える。
4 みんなのことを考えみんなのために働く力(社会貢献力)	⑩思いやり 相手の気持ちを考えながら、互いの存在や立場を尊重しようとする。	⑪公共心 公共の利益のことを考えようとする。	⑫自己有用感 人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じている。
研究	テーマ	子ども主体の学びづくり	
	内容等	主体的に問いを立てる・児童が自らの課題を見つける 他者と協働しながら解決していく・人とのかわりあいの中で、自分の思いや考えを持つ ○自ら問いを立てる場がある。 ○協働し解決する場がある。 ○自分らしく表現する場がある。 ○みんなのことを考えみんなのために働く場がある。	
めざす授業の姿			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立山南小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	加減評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	加減評価	達成評価	総合評価
2	自分を認め、他者を認める子ども	★	継続	自分を知り、友達のよさ、違いを認める	子どもが自ら立てた目標を達成しようと努力できる活動にする。	児童アンケートの自己肯定感・有用感に関する④「自分に良いところがある」⑤「人の役に立ててうれしい」の2項目で肯定的評価を85%以上にする。	児童アンケートの肯定的評価④67%、⑤77%だった。夢の木を書く取組やクラスでのいいところみつけ、山南の花の取組を行った。	3	3	児童会を中心に山南の花の取組を継続し、人の役に立てた行動を価値づけていく。また、月ごとに交流学級、異学年等でよさを認め合う活動を行う。				
2	自ら考え、学ぶ子ども	★	継続	目標を決め実行しリフレクションする	対話の場の設定。リフレクションによる学びの価値づけ。 問いを立て、振り返り、検証することで次のチャレンジ、目標を決める。	・チャレンジしたことや取組実践についてのワンペーパー交流を1カ月に一人1回以上行うことの実践率を100%にする。 ・児童アンケートの子ども主体の学びに関する②「自分の考えをもって学習している」③授業で考える(考え合う)ことがおもしろい」の2項目で肯定的評価を85%以上にする。	・1か月の取組をリフレクションシートにまとめ、交流することが100%できた。 ・授業の中で、グループ活動や自由進度学習を取り入れたり、宿題の出し方を工夫したりした。アンケート結果は②「自分の考えをもって学習している」が77.8%、③授業で考える(考え合う)ことがおもしろい」が78.7%だった。	3	3	・それぞれの単元や学習での子どもたちの主体的な姿を教師がイメージし、具体的な子どもたちの姿をリフレクションにまとめて交流する。 ・体験活動や、実物を操作、観察することなどを通して、一人ひとりが問いをもち、学習のゴールをイメージして、学習できる授業づくりをする。				
1	生き生きとやりがいをもって勤務する教職員	★	新規	年間を通して、計画的に研修、自己研鑽を図る	定時退校日の徹底とスケジュール管理をし、見通しをもって職務を遂行する。	・1ヶ月あたりの時間外勤務45時間以内の教職員を100%にする。 ・仕事に対する肯定的評価90%以上にする。	・1ヶ月あたりの時間外勤務45時間以内の教職員は98.6%。見通しをもって職務を遂行できるよう週計画表を配るなどして取組んだ。 ・仕事に対する肯定的評価は92.4%。	3	3	引き続き、週計画表を配付し、いつまでに、誰が、何をするのか明確に示し、見通しをもって職務を遂行できるようにする。児童と関わる時間の確保、服務規律の確保に向けた取組として、アンケートや対話を通して業務改善を行う。				

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。